

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法<sup>®</sup>標準図

(一財)日本建築センター評定  
国土交通大臣認定

BCJ評定-FD0554  
MSTL-0484, 0532

センクシア株式会社

URL http://www.senqcia.co.jp/

2021/08

本社 TEL 03-4214-1932

札幌 TEL 011-708-1177

中部 TEL 052-582-3356

中四国 TEL 082-240-1630

東北 TEL 022-213-5595

北陸 TEL 076-233-5260

九州 TEL 092-452-0341

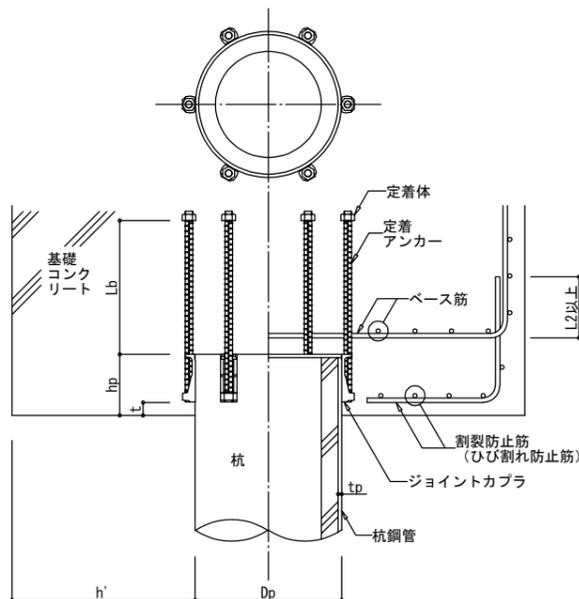
関東 TEL 027-322-9411

関西 TEL 06-6395-2133

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



| 項目                               | 内容   |
|----------------------------------|--|
| Dp : 杭径 (mm)                     | SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200<br>鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500 |
| tp : 鋼管板厚 (mm) ※1                | tp ≥ 9   |
| hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2            | hp ≥ 330                                       |
| t : 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb : 定着長 (mm) ※3                 | Lb ≥ 16db (db=41mm)                            |
| h' : へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                     |
| 割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)                  | タテヨコD13@300mm以下                                |
| Fc : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | 24 ≤ Fc ≤ 60                                   |

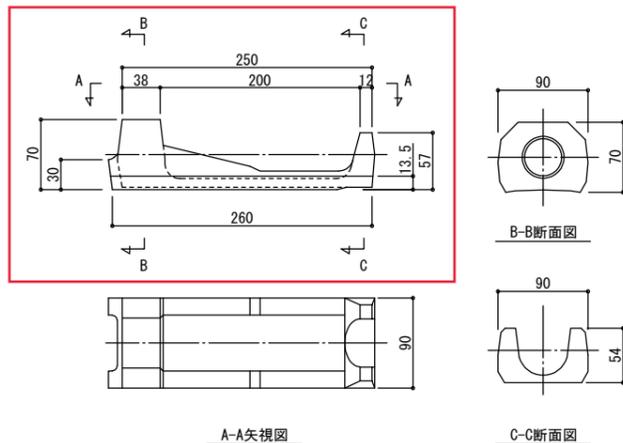
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

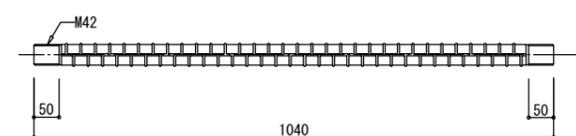
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

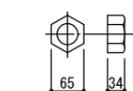
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)

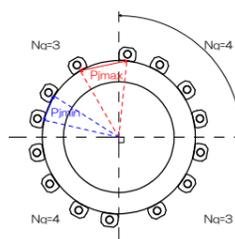


定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



施工配置条件

- 定着アンカーの配置本数は偶数を基本とすること。
- 90度 (周長の1/4) の範囲に配置する本数Nqは配置本数の約1/4にすること。  
90度の範囲は基礎梁の方向に沿って区画された範囲とする。  
区画の境界に配置する場合には、一方で含め、他方では含めないように数える。
- 隣り合うジョイントカブラの間隔Pjは、最小配置間隔Pjmin以上、最大配置間隔Pjmax以下であること。  
Pjmin ≤ Pj ≤ Pjmax  
(特許6585146号)



| 杭符号         | 杭径 (mm) | 仕様 | 施工配置条件       |                   |
|-------------|---------|----|--------------|-------------------|
|             |         |    | 90度範囲配置本数 Nq | 最大配置間隔 Pjmax (mm) |
| ※ 詳細は杭リスト参照 |         |    |              |                   |

3. 施工

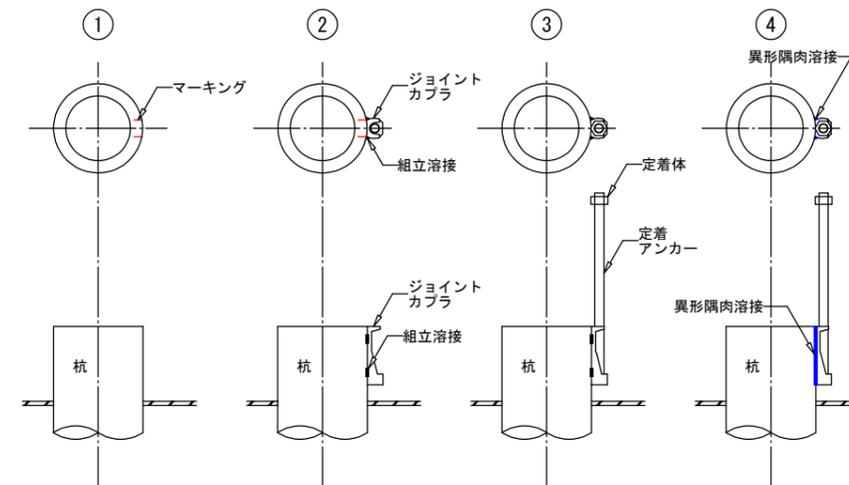
3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
- ジョイントカブラの組立溶接  
ジョイントカブラの配置検査
- 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
- ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)

完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。  
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

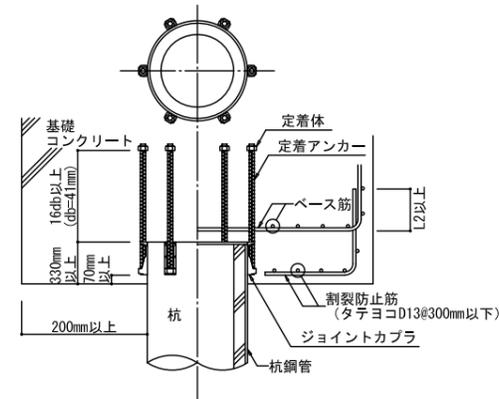
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。  
ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8mm以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

### ジョイントカプラ工法<sup>®</sup> 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCU評定-FD0554  
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

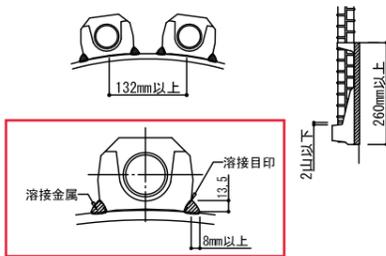
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

#### 杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8mm以上とする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

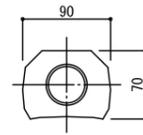
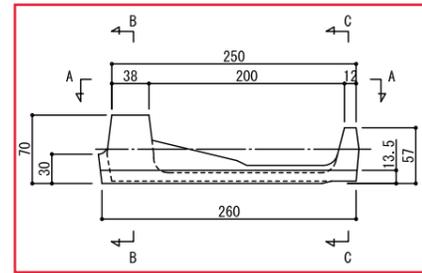


※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
 ※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

### ジョイントカプラ工法<sup>®</sup> 部品図

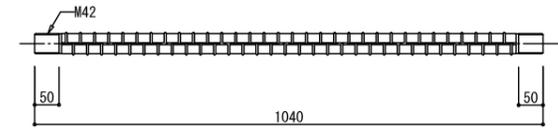
(一財)日本建築センター 評定 BCJ評定-FD0554  
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532、SN490B相当)

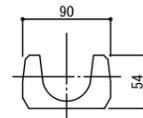


B-B断面図

定着アンカー D41 (JIS G3112、材種: SD490)

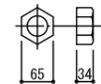


A-A矢視図



C-C断面図

定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



杭頭接合法

ジョイントカブラ工法<sup>®</sup>標準図

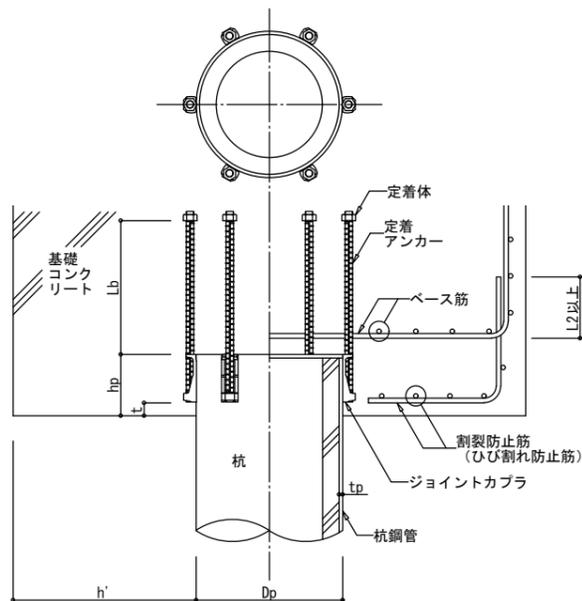
(一財)日本建築センター評定 BGJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

本社 TEL 03-4214-1932 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630  
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341  
関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



| 項目                               | 内容   |
|----------------------------------|--|
| Dp : 杭径 (mm)                     | SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200<br>鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500 |
| tp : 鋼管板厚 (mm) ※1                | tp ≥ 9   |
| hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2            | hp ≥ 330                                       |
| t : 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb : 定着長 (mm) ※3                 | Lb ≥ 16db (db=41mm)                            |
| h' : へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                     |
| 割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)                  | タテヨコD13@300mm以下                                |
| Fc : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | 24 ≤ Fc ≤ 60                                   |

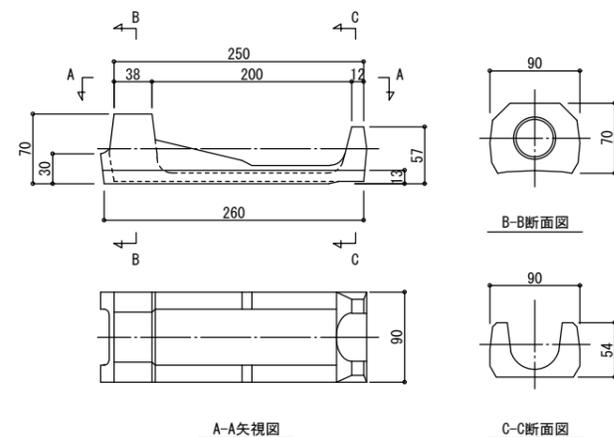
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

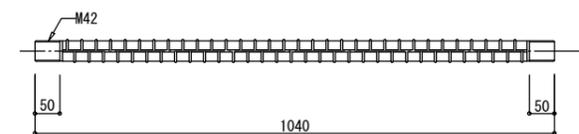
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



施工配置条件

① 定着アンカーの配置本数は偶数を基本とすること。  
② 90度 (周長の1/4) の範囲に配置する本数Nqは配置本数の約1/4にすること。  
90度の範囲は基礎梁の方向に沿って区画された範囲とする。  
区画の境界に配置する場合には、一方を含め、他方では含めないように数える。  
③ 隣り合うジョイントカブラの間隔Pjは、最小配置間隔Pjmin以上、最大配置間隔Pjmax以下であること。  
Pjmin ≤ Pj ≤ Pjmax  
(特許6585146号)

表1 ジョイントカブラ工法 定着アンカーの仕様

| 杭符号         | 杭径 (mm) | 仕様 | 施工配置条件       |                   |
|-------------|---------|----|--------------|-------------------|
|             |         |    | 90度範囲配置本数 Nq | 最小配置間隔 Pjmin (mm) |
|             |         |    |              | 最大配置間隔 Pjmax (mm) |
| ※ 詳細は杭リスト参照 |         |    |              |                   |

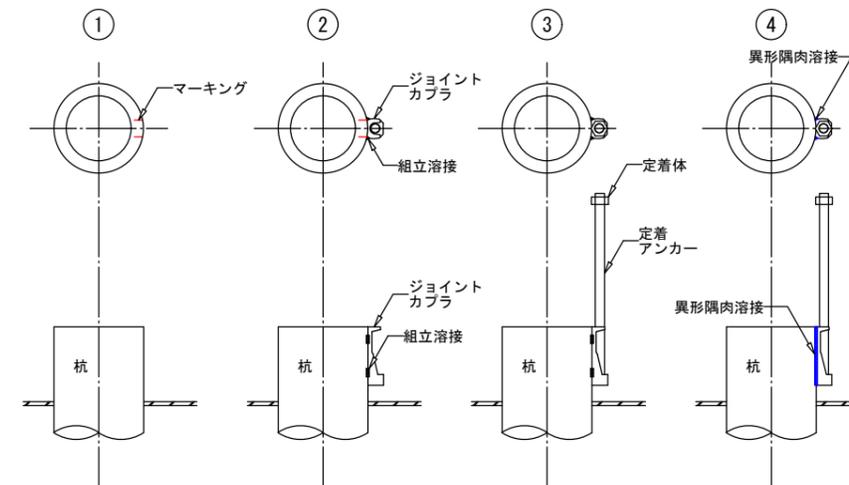
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
  - ② ジョイントカブラの組立溶接  
ジョイントカブラの配置検査
  - ③ 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
  - ④ ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。  
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

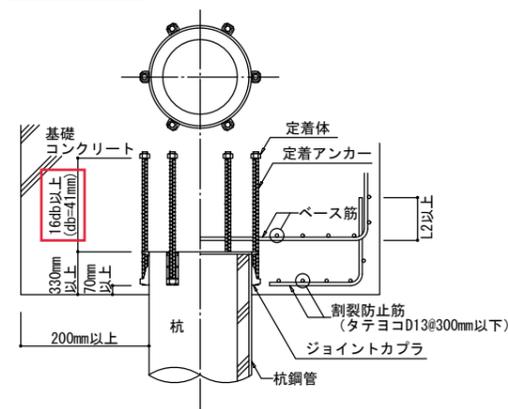
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。  
ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

### ジョイントカブラ工法<sup>®</sup>施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

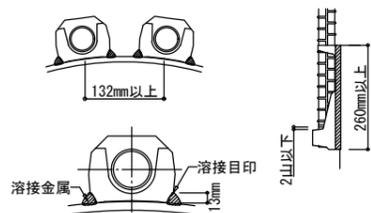
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

#### 杭頭接合部詳細図



#### 検査項目

- 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。
- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
  - ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
  - ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
  - ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
  - ・定着アンカーの曲げ加工はできない。



- ※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
- ※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

杭頭接合法

ジョイントカプラ工法<sup>®</sup>標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532



URL <http://www.senqcia.co.jp/>

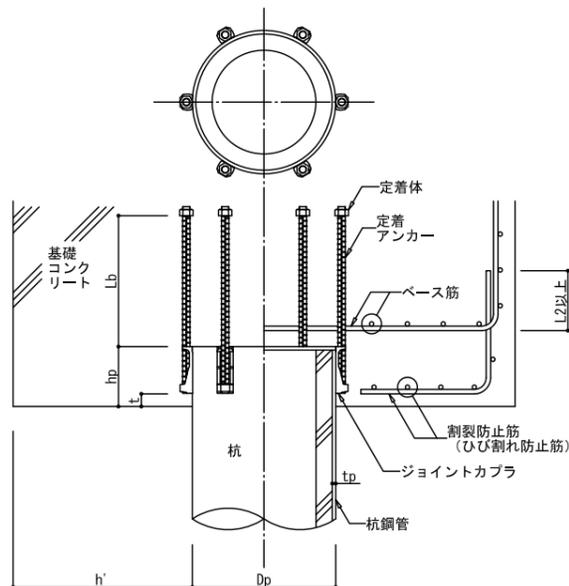
2019/10

本社 TEL 03-4214-1932 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133  
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630  
関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

| 項目                               | 内容   |
|----------------------------------|--|
| Dp : 杭径 (mm)                     | SC杭 : $400 \leq Dp \leq 1200$<br>鋼管杭 : $400 \leq Dp \leq 1500$ |
| tp : 鋼管板厚 (mm) *1                | tp ≥ 9   |
| hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) *2            | hp ≥ 330   |
| t : 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb : 定着長 (mm) *3                 | Lb ≥ 710   |
| h' : へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                                     |
| 割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)                  | タテヨコD13@300mm以下  |
| Fc : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | $24 \leq Fc \leq 60$   |

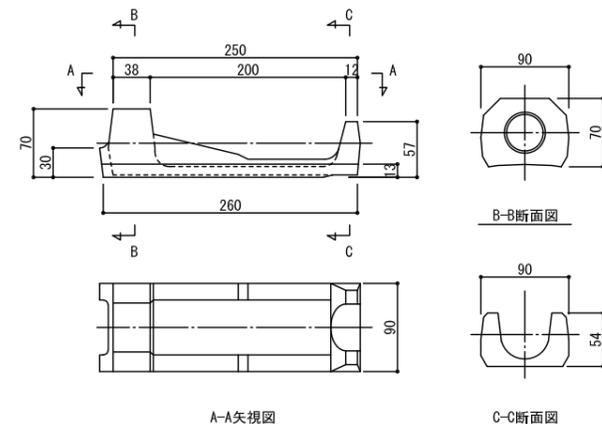
\*1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
\*2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
\*3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

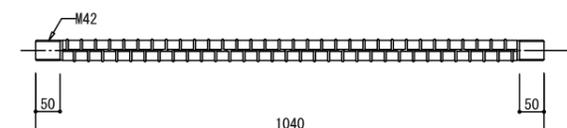
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

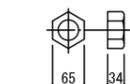
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



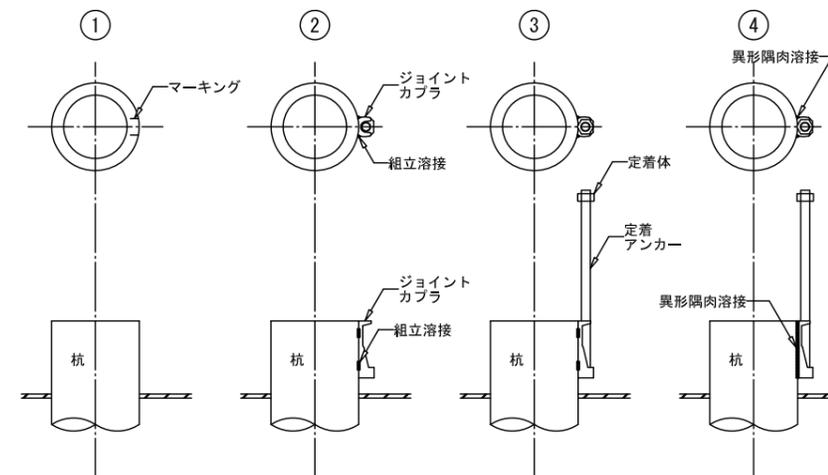
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。  
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
  - ② ジョイントカプラの組立溶接  
ジョイントカプラの配置検査
  - ③ 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
  - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。  
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接:  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

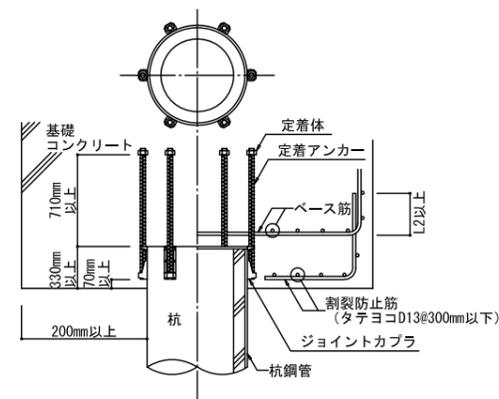
- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。  
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

### ジョイントカブラ工法<sup>®</sup> 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCG評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484 **0532**

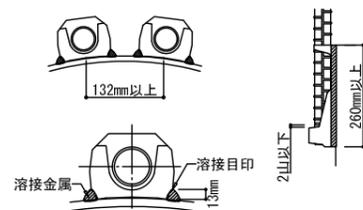
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

#### 杭頭接合部詳細図



#### 検査項目

- 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。
- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
  - ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
  - ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
  - ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
  - ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

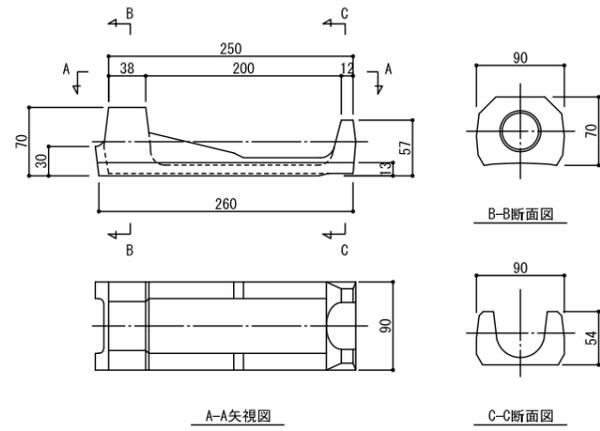


- ※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
- ※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

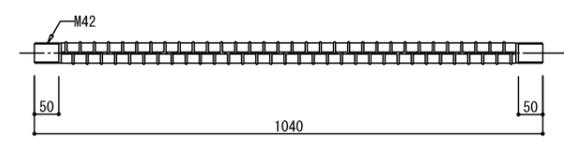
### ジョイントカプラ工法<sup>®</sup> 部品図

(一財)日本建築センター 認定 BCJ 評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484, **0532**

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, **0532** SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材種: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



杭頭接合法

ジョイントカプラ工法<sup>®</sup>標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484



本社 TEL 03-4214-1932

札幌 TEL 011-708-1177  
東北 TEL 022-213-5595  
関東 TEL 027-322-9411

URL <http://www.senkcia.co.jp/>

横浜 TEL 03-4214-1945  
中部 TEL 052-582-3356  
北陸 TEL 076-233-5260

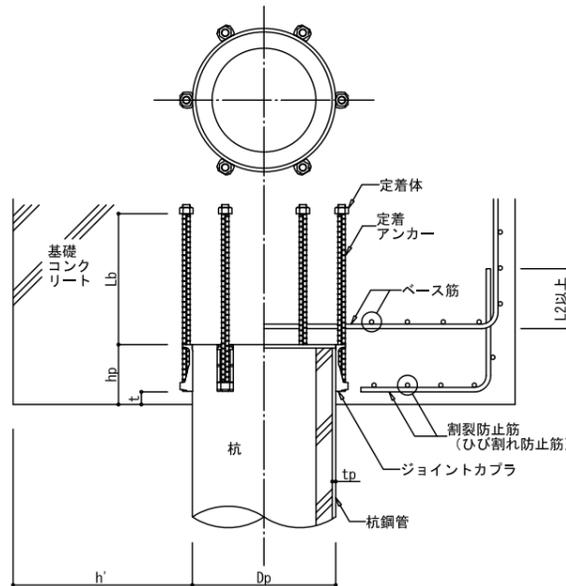
関西 TEL 06-6395-2133  
中四国 TEL 082-240-1630  
九州 TEL 092-452-0341

2019/6

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

| 項目                               | 内容   |
|----------------------------------|--|
| Dp : 杭径 (mm)                     | SC杭 : $400 \leq Dp \leq 1200$<br>鋼管杭 : $400 \leq Dp \leq 1500$ |
| tp : 鋼管板厚 (mm) *1                | tp ≥ 9   |
| hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) *2            | hp ≥ 330   |
| t : 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb : 定着長 (mm) *3                 | Lb ≥ 710   |
| h' : へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                                     |
| 割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)                  | タテヨコD13@300mm以下  |
| Fc : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | $24 \leq Fc \leq 60$   |

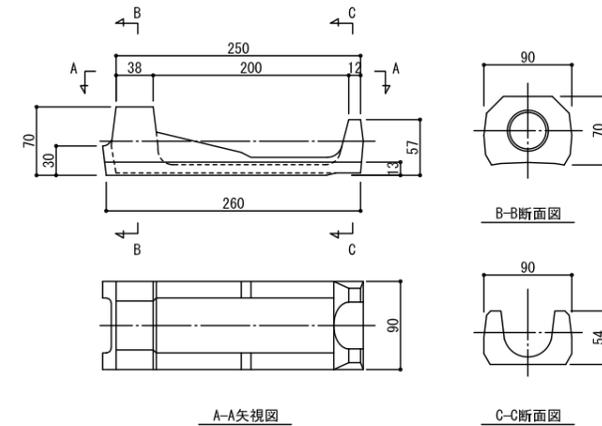
\*1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
\*2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
\*3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

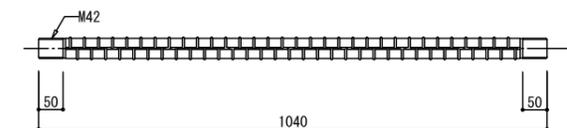
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質 : SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



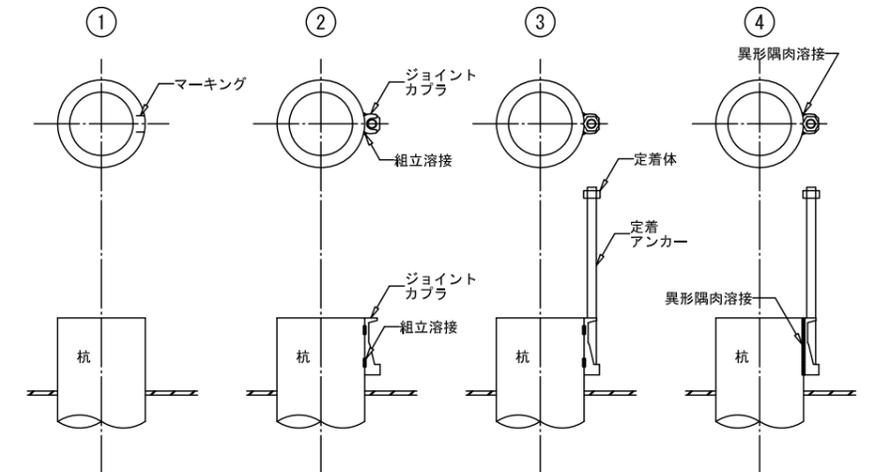
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。  
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
  - ② ジョイントカプラの組立溶接  
ジョイントカプラの配置検査
  - ③ 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
  - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。  
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接 : 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接 : 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。  
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法<sup>®</sup>標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

センクシア株式会社

URL <http://www.senqcia.co.jp/>

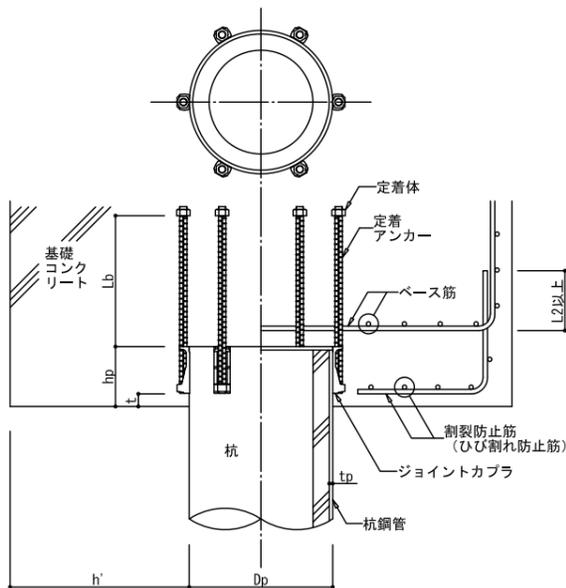
2018/12

本社 TEL 03-3615-5432 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881 関西 TEL 06-6395-2133  
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630  
関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

| 項目                               | 内容   |
|----------------------------------|--|
| Dp : 杭径 (mm)                     | SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200<br>鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500 |
| tp : 鋼管板厚 (mm) *1                | tp ≥ 9   |
| hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) *2            | hp ≥ 330                                       |
| t : 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb : 定着長 (mm) *3                 | Lb ≥ 710                                       |
| h' : へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                     |
| 割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)                  | タテヨコD13@300mm以下                                |
| Fc : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | 24 ≤ Fc ≤ 60                                   |

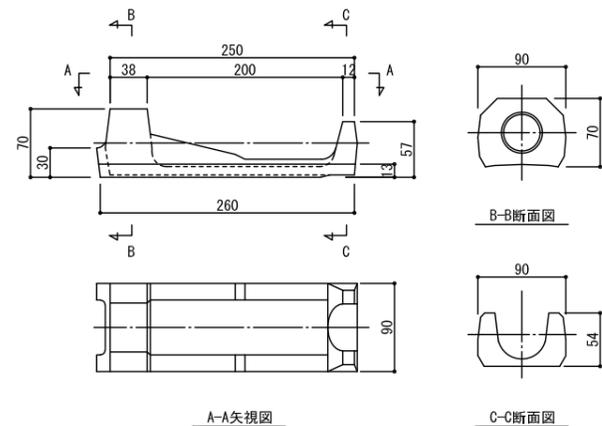
\*1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
\*2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
\*3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

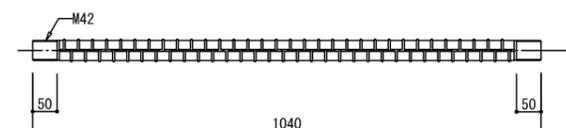
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

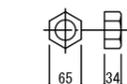
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



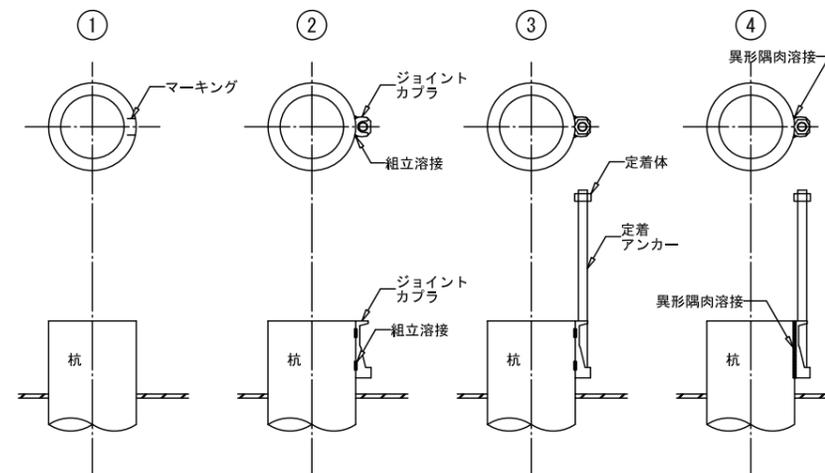
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。  
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
  - ② ジョイントカブラの組立溶接  
ジョイントカブラの配置検査
  - ③ 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
  - ④ ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。  
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接:  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

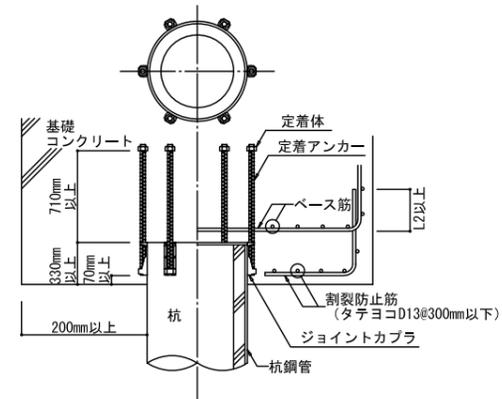
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。  
ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

**ジョイントカブラ工法® 施工要領図**

(一財)日本建築センター評定 BCG評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

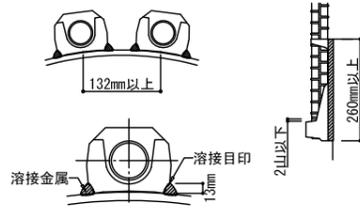
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

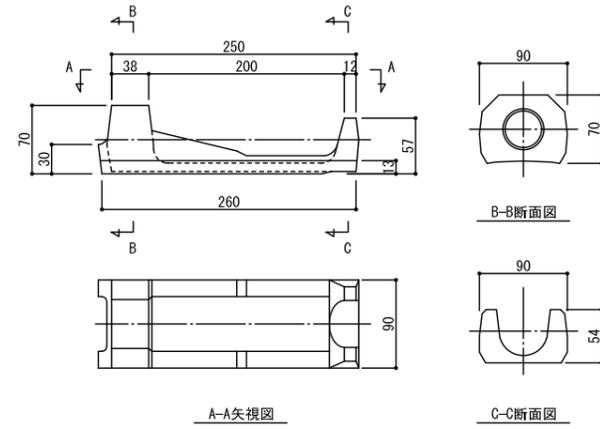


※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

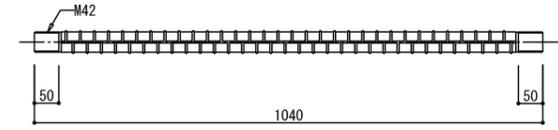
ジョイントカプラ工法<sup>®</sup> 部品図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材種: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



杭頭接合法

ジョイントカプラ工法標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484



URL http://www.senqcia.co.jp/

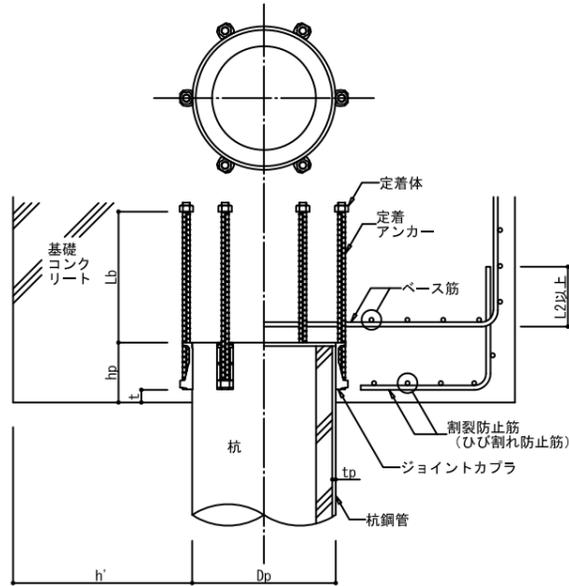
2018/8

本社 TEL 03-3615-5432 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881 関西 TEL 06-6395-2133  
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630  
関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

| 項目                              | 内容   |
|---------------------------------|--|
| Dp: 杭径 (mm)                     | SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200<br>鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500 |
| tp: 鋼管板厚 (mm) ※1                | tp ≥ 9   |
| hp: 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2            | hp ≥ 330                                       |
| t: 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb: 定着長 (mm) ※3                 | Lb ≥ 710                                       |
| h': へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                     |
| 割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)                 | タテヨコD13@300mm以下                                |
| Fc: 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | 24 ≤ Fc ≤ 60                                   |

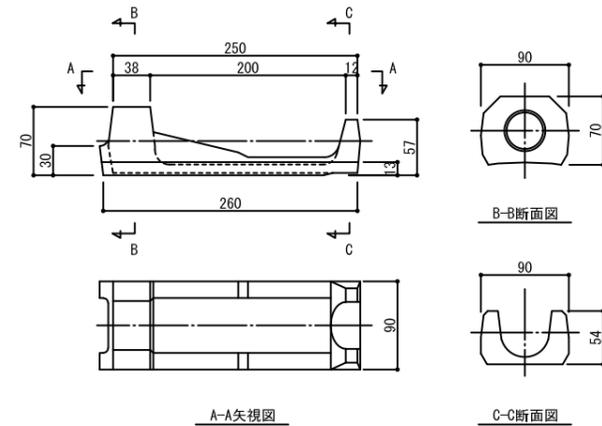
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
※3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

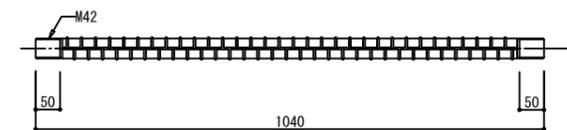
|         |     |     |      |      |      |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



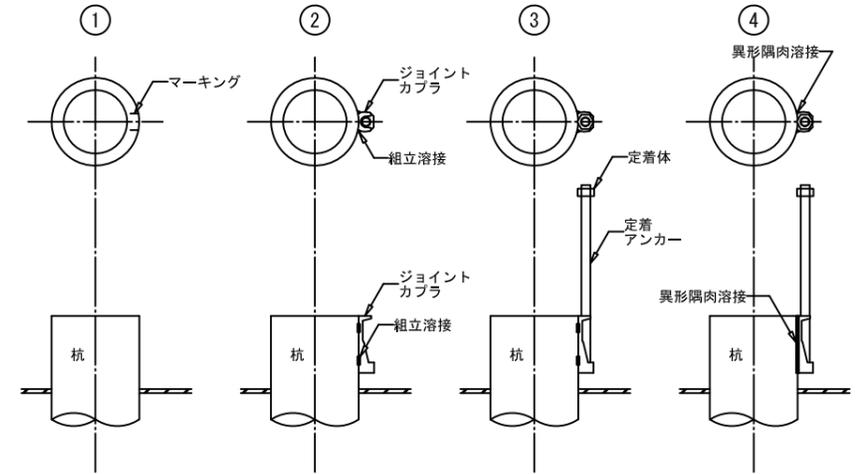
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。  
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
  - ② ジョイントカプラの組立溶接  
ジョイントカプラの配置検査
  - ③ 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
  - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。  
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。  
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。  
**誤記修正**
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

センクシア株式会社

URL <http://www.senqcia.co.jp/>

2018/2

本社 TEL 03-3615-5432

札幌 TEL 011-708-1177

横浜 TEL 045-548-9881

関西 TEL 06-6395-2133

東北 TEL 022-213-5595

中部 TEL 052-582-3356

中四国 TEL 082-240-1630

関東 TEL 027-322-9411

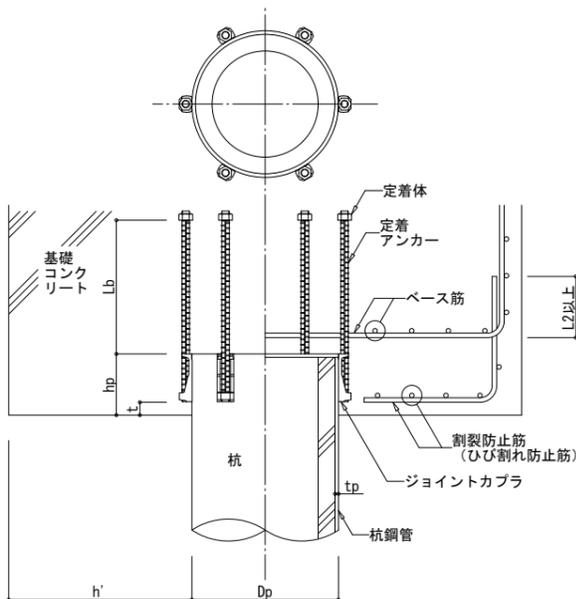
北陸 TEL 076-233-5260

九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



| 項目                              | 内容   |
|---------------------------------|--|
| Dp: 杭径 (mm)                     | SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200<br>鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500 |
| tp: 鋼管板厚 (mm) ※1                | tp ≥ 9   |
| hp: 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2            | hp ≥ 330                                       |
| t: 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb: 定着長 (mm) ※3                 | Lb ≥ 710                                       |
| h': へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                     |
| 割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)                 | タテヨコD13@300mm以下                                |
| Fc: 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | 24 ≤ Fc ≤ 60                                   |

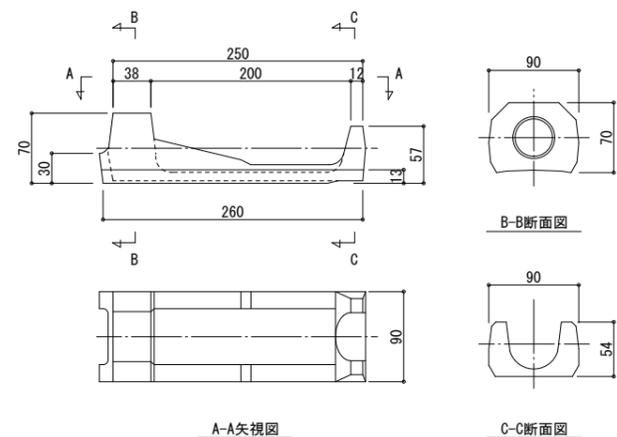
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

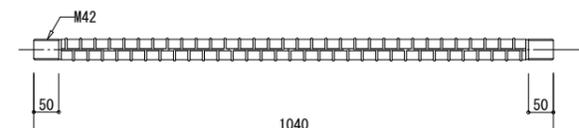
|         |     |     |      |      |      |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

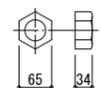
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112, 材種: SD490)



定着体 (JIS B1052, 強度区分5以上)

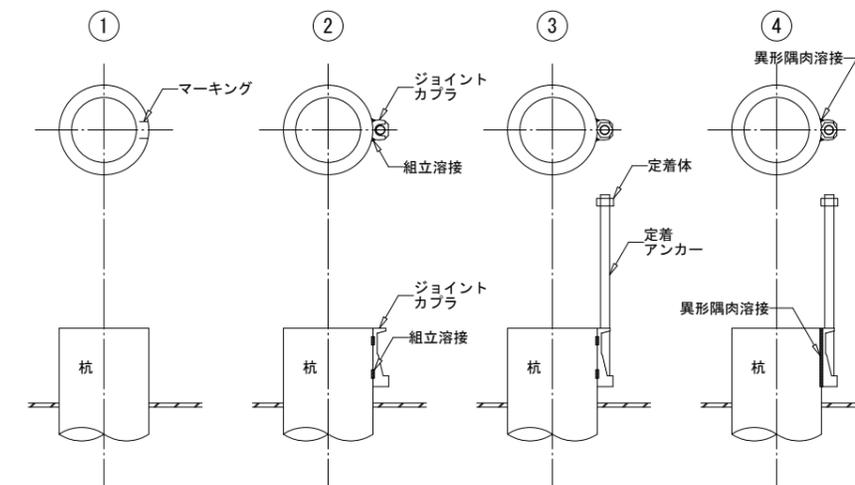
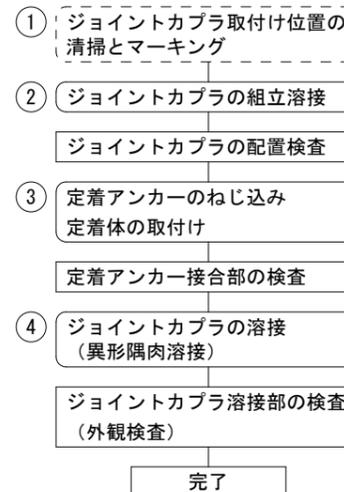


3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
- 注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
- 注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
- 注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。  
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)  
ガスシールドアーク溶接:  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)  
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

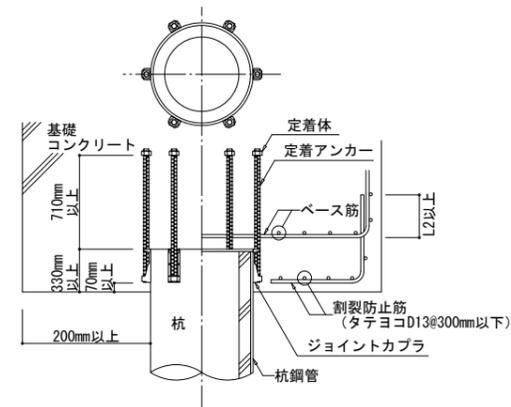
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。
- ジョイントカブラの高さ方向取付け位置に対する許容差は±5mm以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

### ジョイントカブラ工法 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

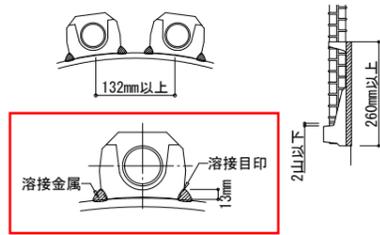
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。



※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
 ※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

センクシア株式会社

本社 TEL 03-3615-5432

札幌 TEL 011-708-1177

URL <http://www.senqcia.co.jp/>

横浜 TEL 045-548-9881

東北 TEL 022-213-5595

中部 TEL 052-582-3356

関東 TEL 027-322-9411

北陸 TEL 076-233-5260

関西 TEL 06-6395-2133

中四国 TEL 082-240-1630

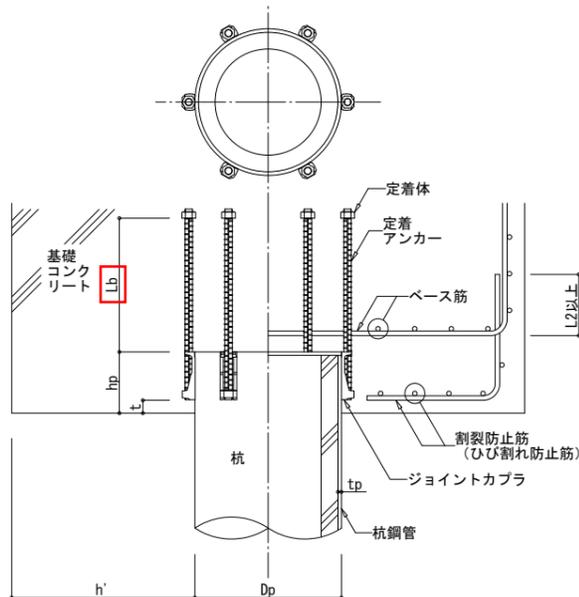
九州 TEL 092-452-0341

2018/1

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。  
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

| 項目                               | 内容   |
|----------------------------------|--|
| Dp : 杭径 (mm)                     | SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200<br>鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500 |
| tp : 鋼管板厚 (mm) ※1                | tp ≥ 9   |
| hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2            | hp ≥ 330                                       |
| t : 設計かぶり厚 (mm)                  | t ≥ 70   |
| Lb : 定着長 (mm) ※3                 | Lb ≥ 710                                       |
| h' : へりあき (mm)                   | h' ≥ 200<br>かつ構造耐力上必要な寸法以上                     |
| 割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)                  | タテヨコD13@300mm以下                                |
| Fc : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) | 24 ≤ Fc ≤ 60                                   |

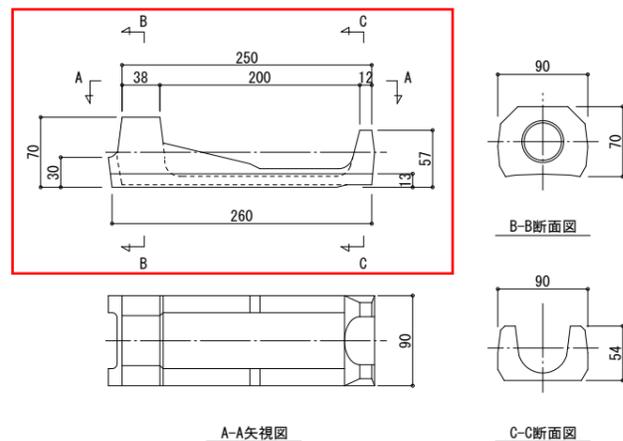
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。  
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。  
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

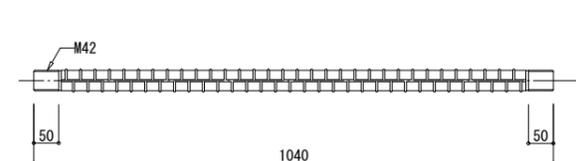
|         |     |     |      |      |      |
|---------|-----|-----|------|------|------|
| 杭径 (mm) | 400 | 450 | 500  | 600  | 700  |
| 本数 (本)  | 9   | 10  | 11   | 13   | 16   |
| 杭径 (mm) | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 |
| 本数 (本)  | 18  | 20  | 22   | 24   | 26   |

2. 形状

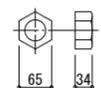
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



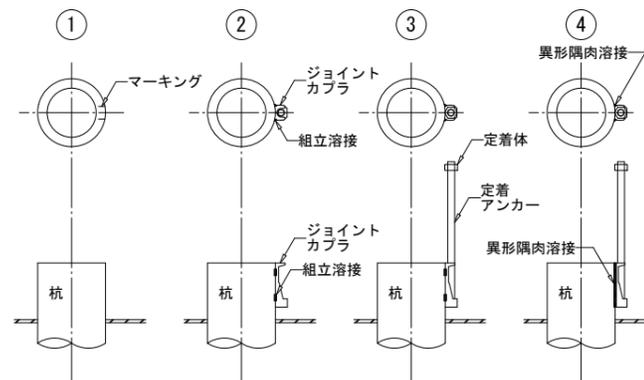
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。  
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
  - ② ジョイントカブラの組立溶接  
ジョイントカブラの配置検査
  - ③ 定着アンカーのねじ込み  
定着体の取付け  
定着アンカー接合部の検査
  - ④ ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)  
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了

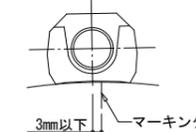
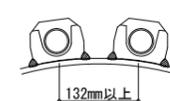


- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。  
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。  
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。

3.3. 検査項目

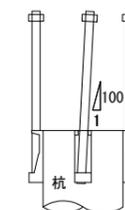
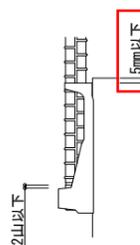
本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。



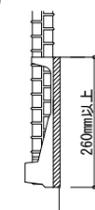
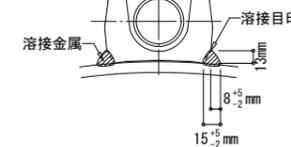
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。

- ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とし、定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。



- 异形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8.0mmとする。

- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

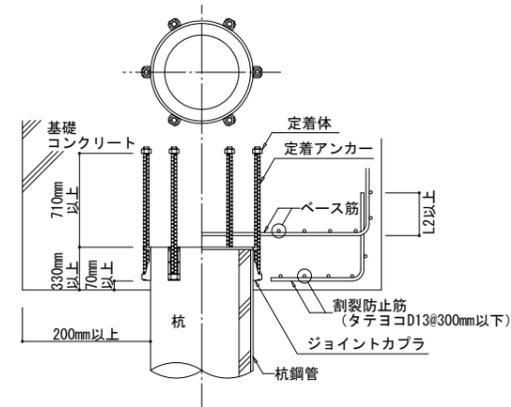


## ジョイントカブラ工法 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

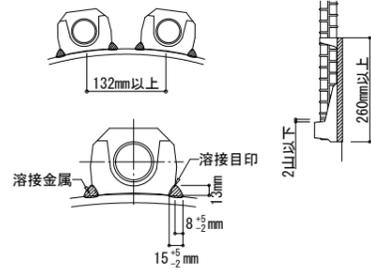
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8.0mmとする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

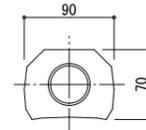
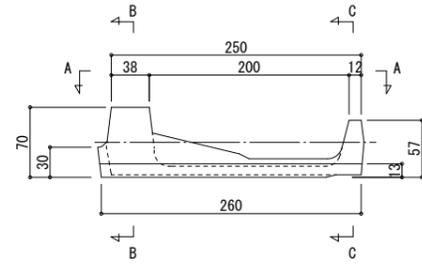


- ※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
- ※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

### ジョイントカブラ工法 部品図

(一財)日本建築センター評定 BQJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

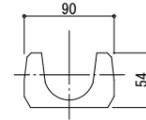
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



B-B断面図

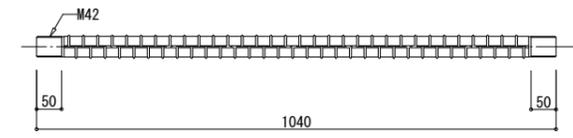


A-A矢視図



C-C断面図

定着アンカー D41 (JIS G3112、材種 : SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)

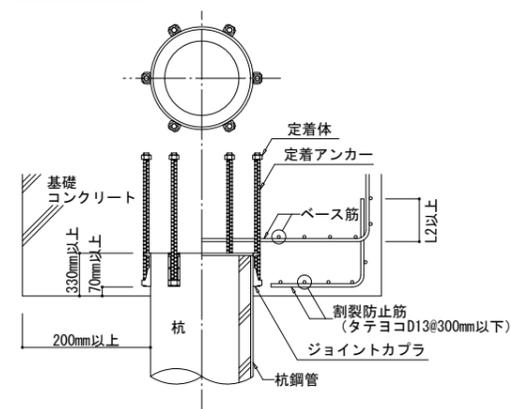


## ジョイントカブラ工法 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

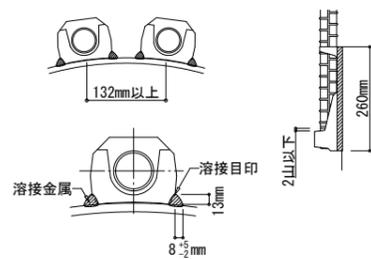
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

## 杭頭接合部詳細図



**検査項目** 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8.0mmとする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mmとする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

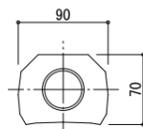
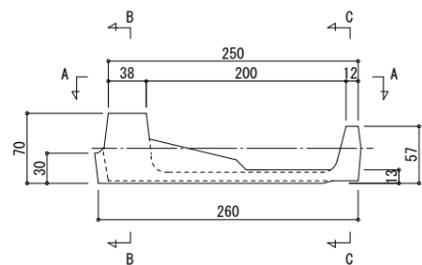


- ※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
- ※ 基礎コンクリートの設計基準強度  $24 \leq F_c \leq 60$  (N/mm<sup>2</sup>)

# ジョイントカプラ 部品図

(一財)日本建築センター評定 BQJ評定-FD0554, FD0555  
国土交通大臣認定 MSTL-0484

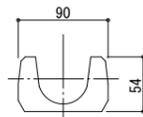
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



B-B断面図

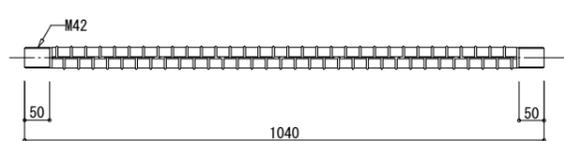


A-A矢視図



C-C断面図

定着アンカー D41 (JIS G3112、材種 : SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)

